日本共産党
静岡市議会議員団
ニュース
2011—No.4

日本共産党静岡市議会議員団
議員控室　TEL 054-254-2111
(内) 4541
FAX 054-272-4695
アドレス　http://www.jcpss.jp/
メール　yksf5@jcpss.jp

6月定例市議会　地震、津波、原発への対策強め災害に強い静岡市を

六月十六日～七月七日までの日程で六月定例会が開会されました。

田辺新市長のもとで初めての議案が提案されました。

日本共産党市議団は、全員が総括質問をするとともに意見書案の提案、市民目線での議案審議をすすめます。

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

今議会への市長提案は十二本です。

四億二千万円の補正予算案では、震災対策として津波避難ビル標識や同報無線の増設、防災備蓄品購入などに二億二千万円、省エネ・新エネ導入対策として五千万円、若年者雇用対策として五千万円、高齢者・子育て支援策として訪問看護支援事業の強化や乳幼児の突然死対応のモニター設置に二千万円、などです。

その他、市長給与カットの条例や、党市議団が提案していた準工業地域への大型店出店を規制する条例、清水の生涯学習交流館の指定管理者導入なども提案されています。

6月定例会会議日程

会期　6/16～7/7(22日間)
会場　静岡庁舎本館
○本会議　6/16㈭午前10時より
○総括質問【第1日】6/24㈮午前10時より
○総括質問【第2日】6/27㈪午前10時より
○総括質問【第3日】6/28㈫午前10時より
○常任委員会 6/30㈭午前10時より
◎総務委員会◎上下水道教育委員会
◎生活文化環境委員会
7/1㈮午前10時より
◎厚生委員会◎経済消防委員会
◎都市建設委員会
○本会議 7/7㈭午前10時より

6月定例会での本会議質疑

6月24日㈮ 午後
内田りゅうすけ議員
①地域防災対策について
②市長の政治姿勢について

6月24日㈮ 午後
寺尾 昭議員
①駿河区の地震、津波対策について
②区役所の権限強化について
③災害と危機管理に対応する職員体制について

6月27日㈪ 午前
山本 明久議員
①原発問題について
②事業仕分けについて

6月27日㈪ 午前
鈴木 せつ子議員
①市長の政治姿勢について
・福祉と防災のまちづくり
・図書館の管理運営について
・学校給食について

地震、津波対策の強化、浜岡原発の廃炉など田辺市長に申し入れ

田辺市長　市議団の要請に答える

市議団は5月25日、田辺市長に会い、浜岡原発の永久停止・廃炉を中電に申し入れること、津波対策の抜本的強化、木造住宅の耐震補強助成の拡充など福祉と防災のまちづくりに関する申し入れを行い、要請しました。

普段からきめ細かく福祉・医療を充実させることが、いざ災害という際にも市民の命と健康・くらしを守る確かな力になると市議団は強調しました。

市長は申し入れの方向性は一致しており、努力する旨答えました。

市議団は6月議会の中でさらに具体的に提案していきます。

議会報告会ひらく

市民団体と市政報告、要求懇談会

6月10日、市政報告・懇談会と東日本大災害復興ボランティア報告を兼ねて行い、11団体の皆さんが参加しました。

要求は、市民文化会館の耐震対策、山岳施策の充実、公契約条例の実現、中学で武道必修への万全な対策、児童クラブ指導員の待遇後退への抗議など様々な要求が出されました。

要求実現にむけた市との交渉など、引き続き取り組んでいくことも話し合われました。

党議員団は、5月28日から4日間の日程で東日本震災ボランティア活動に参加しました。2面で活動報告します。

震災ボランティア特集

日本共産党市議団の４人は実動5月29、30日、津波によって甚大な被害を受けた宮城県亘理（わたり）町に救援ボランティアとして活動してきました。海岸から４キロのいちご農園に、津波がもたらしたヘドロが数センチの厚さで堆積。ハウスからそれを取り出す作業でした。

「もうだめかもしれない」と77歳の主人がつぶやきました。農機具の借金をかかえ、ヘドロと塩分でイチゴの生産が数年間めどがたたず収入がゼロだといいます。個人の努力ではどうにもならない被害状況です。せめて債務を免除して希望がもてるようにする政治が切実に求められていると実感しました。**山本明久**

何も植えられていない水がたまったままの田んぼ、風と雨に打たれてカーテンだけが揺れている壊れた家並、積まれたがれきとにおい、現地へ行ってその悲惨さを肌で感じました。これから収穫というその時に津波で全壊、「本当にがっくりきた」「４～５年はだめだろうな」とつぶやくイチゴ農家のおじさん。私たちの応援でちょっと元気を取り戻し、少し笑顔が戻ったような気がしました。**寺尾　昭**

いちご農家の経営は７０代の夫婦のみ。現地に到着したとたん、「震災で義理の妹が亡くなり、今仮埋葬したところ・・」との言葉。いちご農家の４３０件のうち、残ったのは２８件のみ。農機具のリースだけが残り、生活再建のめどもたたないとの話に、今こそ行政の力が試されていると実感。被災者の皆さんには、「全国で支え、支援する」メッセージを届けたい。**鈴木せつ子**

宮城県亘理町へボランティア参加しました。亘理町は、海岸線から４キロメートル離れた地域なのに津波被害は大変なものでした。実質２日間のヘドロ除去作業でしたが少しは役に立ったのかなと思っております。又、時間を取って、救援・復興のボランティアに参加したいと考えております。**内田りゅうすけ**

海から4キロの地域は、一面見渡す限りガレキの山。亘理町に入ると「支援の皆さん、ありがとう」の文字に、子どもたちの笑顔あふれる普通の暮らしが戻るまで、支援を続けようと決意がみなぎりました。

いちご農家のビニールハウス内に積もった泥出し作業。塩分を含んだ海底のヘドロが粘土状に固まり、除去しないと作物の生育はできません。井戸水は塩分を含み、4～5年しないと元には戻らないだろうと・・と。

米、野菜（農民連よりカンパ）ティッシュなど、支援物資を届けました。　続いて他県からもバナナ、米、カレンダーなど、生活必需品も次々到着

常磐線の線路も押し流す津波の凄まじい破壊力

いちごの収穫直前に津波にあい、いちごがそのままの姿で枯れていました。後継がいない農家にローンが残り、農業再開する意欲を取り戻せるよう、後押しが必要です。